

る。これに対して、砒石は時に陰面を代表するとは言え略陽面を代表するとされる。

(1) 関西鍼灸短期大学

(2) 南小岩接骨院

28 東京歯科医学専門学校臨床歯科学

叢書の書誌学

森山 徳長・○春日 芳彦

東京歯科大学百年の歴史の過半を占める東京歯科医学専門学校の教科書は、まず新纂歯科学講義（明治四十～四十四年）、および歯科学講義（大正元年～六年）と連続して刊行された。この二種類の歯科講義録はその合本が出版された。その後の書下し教科書としては歯科学叢書として（大正十五～昭和十九年）にかけ十五編発行された。

また大正十四年から主として花沢鼎により、臨床歯科学叢書として数編の単行本教科書が順次発行された。

勿論その他にも多くの書下しの単行本が発行され、それらが混然一体となり第二次大戦前の本学教科書体系をかたちづくった。

本叢書は第一巻が大正十四年六月発行され、その緒言に

は以下の書題が記載されている。

- 一 花沢 鼎・岩沢 力…歯槽膿漏ノ病理及療法ノ梗概
 - 二 花沢 鼎…根管ノ解剖、清掃、消毒
 - 三 花沢 鼎…根管充填
 - 四 花沢 鼎・杉山不二…歯牙再植術
 - 五 花沢 鼎…歯髓切断法
 - 六 花沢 鼎・安田康輔…「ラバーダム」防湿法
 - 七 花沢 鼎…歯髓炎ノ症候診断及療法
 - 八 遠藤至六郎…口腔外科臨床講義集
- 第一篇は大正十四年七月十五日、二・三編は八月一日発行された。第四編は原稿の最初の頁のみが、本学に保存されているが、他の書誌学的事項は不明である。
- 第五編は発行された事実が広告によりわかるが、他は不明である。
- 第六・七編は恐らく発行されなかったと推定される。
- 一方、第八編は歯科学報に遠藤が長期間連載し、昭和十一年、本叢書とは別に単行本として出版された。

以上の概要と一〜三編の書誌学的詳細を報告する。

(東京歯科大学)

29 明治大正期歯科保存学書の比較書誌学的研究

森山 徳長・○長谷川正康

わが国に西洋歯科医学が導入され、洋方歯科医学書が出版されはじめたのは明治十二年のことであり、一般大衆向きの啓蒙書であった。明治十四年六月、第三番目に高山紀齋著『保歯新論』が刊行された。本書は当時の米国における Operative Dentistry の形式にならって書き下ろされた日本最初の歯科保存学書である。この第一の保存学書は解剖・胎生・組織学や矯正歯科学も含んだ歯科保存学を主体として、歯科一般を記述した書物である。別に高山歯科医学院義録では歯科病理学で歯髓処置などを取り扱っている。

第二は、講義録以後発表した高山歯科医学院編・高山紀齋著の教科書『歯科手術論』と『歯科汎論』(共に明治二十